

文部科学大臣 田中眞紀子 殿

朝鮮高校への無償化実施の要請書

2010年に民主党が行った「高校無償化」は、日本のすべての高等学校、専修学校、外国人学校の青少年に安心して勉学に打ち込める社会を築くために実現されたもので、画期的なものでした。経済的理由で、教育の機会が奪われないように教育権の保障を実施したことは青少年の未来を輝かせるもので、大変評価されることです。しかし、それがすべての子どもに実施されない限り、「高校無償化」が実現されたとは言えません。

未だに朝鮮高校だけが無償化の対象から外されています。素晴らしい「高校無償化」であっても、朝鮮高校の生徒の未来を閉じるものであれば、その目的に反するものです。朝鮮高校の生徒は、自らの民族のことばを学び、文化を学ぶことに喜びを見出し、アイデンティティを培っています。日本人が自分たちのことばを学び、文化を学び、高めていく事が保障されているように、朝鮮高校の生徒にもそれが等しく保障されなければなりません。そして朝鮮高校の卒業生の皆さんが、現在、日本と朝鮮の架け橋となって頑張っています。これは日本にとってもかけがえのない人たちであります。この青少年たちを生み出し、活躍する人たちを育てている朝鮮高校の無償化を日本政府は実現すべきです。外交や政治的理由で、青少年の学ぶ権利がはく奪されるべきではありません。しかも、日本の植民地政策によって、在日朝鮮人の方が日本に住んでいることを考えたら、日本政府はなにがあってもまず、その青少年たちの学びを保障することが、植民地政策を反省し、アジアの人々と連帯していく事です。ところが、その青少年の教育権を奪うことは、かつての歴史をきちんと謝罪していないことで日本人として本当に悲しく、恥ずかしいことです。

田中文科相は就任してから、現状の「高校無償化」制度について、「政治的判断と審査を急ぐ」とお話しされました。すでに2年以上の歳月が流れました。どうか、一刻も早く、政治的差別と排除をやめ、朝鮮高校にも平等に、無償化が適用されることを強く要求するものです。

2012年 11月2日

東京都豊島区池袋本町2-6-3

緑の党党首 對馬テツ子